

JASMA 会報

2023年2月発行（季刊）一般社団法人日本縫製機械工業会

CONTENTS

新年ご挨拶	1
年頭所感	2
国際アパレル機器&繊維産業見本市 JIAM2022 OSAKA開催	3
第43回ホームソーイング小・中・高校生作品コンクール入選作品決定	4
JASMA部会・委員会・WGの紹介	4

新年ご挨拶

一般社団法人日本縫製機械工業会
会長 内梨 晋介



明けましておめでとうございます。

令和5年の年頭を迎えるに当たり、皆様には希望に満ちた新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。昨年は、日本を始め世界の多くの国々で新型コロナ感染症の抑制と経済社会活動の復興

の両立に向けた一年となりました。国内においては、新規感染者数増加による経済活動や日常生活の制約があったものの、ワクチン接種率の向上や10月の水際対策緩和による入出国制限の見直しもあり、経済活動が回復されてきております。同時に、「ニューノーマル」の普及によりテレワークの活用やWEBミーティング・展示会などの働き方が定着し、新たな経済活動が認知される時代になったといえます。

このような状況の中、11月30日（水）から12月3日（土）までインテックス大阪において、**JIAM 2022 OSAKA**「国際アパレル機器&繊維産業見本市」が開催され、出展者数11か国・地域から150社（前回：258社）、来場者数10,452人（前回：15,257人）として開催できたことを改めて感謝申し上げます。新型コロナ対策の影響もあり中国からの来場者は減少しましたが、インド・バングラデッシュなど南アジアや欧米、国内から多くの来場者を得たことは、会員、関係者各位のご支援とご協力によるものです。ありがとうございました。

さて、昨年を振り返りますと国内景気は、資源価格上昇や円安によって物価上昇、サプライチェーン分断による生産への影響がみられ、消費意欲の減速や購買力低下が懸念されたものの、好調な企業収益や人事不足を背景とした設備投資は高

い水準を維持し、また政府による経済対策による個人消費の下支えもあり、内需主導で2022年下期は緩やかに回復しました。

一方、世界景気は、コロナ禍からの復興により徐々に回復に向かったもののロシア・ウクライナ紛争等地政学リスクの高まり、資源高や物流費の高騰、米国はじめ各国での金融引き締め、新興国の外貨事情の悪化等個人消費や企業収益を圧迫し始めております。

本年は、世界的にコロナ禍による社会経済活動の制限がほぼ解消され、社会経済活動の更なる活性化や労働不足を背景とした生産性向上に向けた設備投資の拡大、IoT・XR（クロスリアリティ）・AIなどの技術革新など世界・国内の景気が改善に向かうことを期待しております。

縫製機械業界においては、コロナ禍からのアパレル業界の回復の動きがみられるとともに、SDGs「持続可能な開発目標」の浸透による消費者マインドの変化、縫製工場での人材不足解消への対応など課題解決に向けた省力化や脱技能化に向けた製品開発ニーズが高まっております。

本年は、工業用ミシンでは産業資材関連への供給増やネット販売の進展によるアパレル市場の拡大、家庭用ミシンでは自らものを作る楽しみへの気運の普及・醸成に期待しております。当業界としては、市場が求める自動化・ロボット化・IoT・ネットワーク化の動きに対応していくことが重要と思っております。

令和5年（2023年）の十二支（じゅうにし）は「卯（うさぎ）年」です。卯年は、芽を出した植物が成長していき茎や葉が大きくなる時期にあたり、また、うさぎは飛び跳ねることから「飛躍する」、「向上する」の象徴です。世界中で新しいことに挑戦

し、成長することを切望しております。

このような状況を踏まえ、当工業会は次の取り組みを主に実施いたします。

一つ目は、**JIAM 2022 OSAKA** が会員、関係者各位のご協力により成功裡に終わったことを受けまして、次回**JIAM**展は2024年11月27日（水）から30日（土）、インテックス大阪において開催することを発表いたしました。2年後の会期に向け、**JIAM 2024 OSAKA**の準備を早急にすすめる所存です。今後とも本見本市は、「日本の最新技術を発信する場」として、国内外の縫製機械のお客様に向け最新情報を発信してまいります。

引き続き、縫製機械業界の皆様からの積極的な参加に加え、アパレル・繊維業界、産業資材関連そして関係官公庁・団体の皆様方からのご支援、ご協力をお願い申し上げます。

二つ目は、家庭用ミシンを使った『ものづくり』の普及促進に関することです。その事業の中心となる第43回「ホームソーイング小・中・高校生作品コンクール」は、コロナ禍の中ではありましたが、家庭科教育として作品作りに取り組んでいただき、応募校数558校（前年637校）、応募作品数3,375点（前年3,689点）となりました。いずれも素晴らしい出来栄の力作やアイデア溢れる個性的な作品となりました。関係された先生方、学校関係者、ご賛同いただいた皆様方のご協力に深く感謝いたします。

表彰式は、来る3月4日（土）に開催することとしておりますので、多くの方々の参加をお待ちしております。私共としては、今

後も本コンクールが、家庭科教育におけるミシンを通じた我が国『ものづくり』文化のすそ野拡大、並びに将来のアパレル・ファッション・繊維産業を担う人材の育成に寄与していくものと期待しております。

三つ目は、自動化・ロボット化・IoT・ネットワーク化への対応に加え、新しい日常の中でのコネクテッド・インダストリーズやDXの推進です。

当工業会の「共通基盤ネットワーク研究会」は、2018年度からアパレル、副資材、プリント、CAD/CAM、ミシン業界など関係者にお集まりいただき開催してまいりました。本年度は、CADと工業用ミシンをデータで繋げるための共通フォーマットの構築に向けて関係者で議論しているところです。来年度に向けては、その議論をさらに具体的に進めるために（一財）機械システム振興協会の事業募集に応募してその実施に向けて準備を進めているところです。業界関係者や関係する先生方等にご協力を得ながら、来年度に事業を進める所存です。

最後になりますが、私共としては、本年も、会員企業間のコミュニケーションの更なる充実を図りつつ、経済産業省のご指導のもと、関係諸団体とも連携を密にし、当工業会の着実な運営と発展に向けて努力してまいり所存です。

令和5年が新型コロナウイルス感染症の収束を迎え、災害のない穏やかな年となるよう祈念するとともに、皆様方のご健勝と益々のご活躍、ご多幸を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

年頭所感



経済産業省製造産業局
産業機械課 課長 安田 篤

令和5年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

新型コロナウイルスの世界的拡大から3年弱が経過しました。産業界の皆様には、テレワークの推進や時差出勤、職域接種によるワクチン接種の加速など、

様々な形で御協力をいただき、改めて御礼申し上げます。

他方で、昨年2月に始まったロシアによるウクライナ侵攻は、米中対立、新型コロナウイルスによるパンデミックに引き続き、1990年以降拡大してきたグローバリゼーションを逆行させる歴史的な出来事となり、これを背景として、世界的なインフレの加速と急激な円安の進行など先行き不透明な状況が続いて

おり、我が国の製造業は、半導体をはじめとした部素材の供給途絶やエネルギー価格の高騰など、様々な面で引き続き影響を受けておられると承知しています。我が国製造業の成長のために引き続き皆様と全力を尽くして進めてまいりたいと思います。

ロシア・ウクライナ情勢に加え、グローバルなサプライチェーンの脆弱性や国家、地域間の相互依存リスクが顕在化する中、昨年5月に成立した経済安全保障推進法に基づき、我が国では日本の経済構造の自立性の向上、技術の優位性、ひいては不可欠性の確保を目指し様々な施策に取り組んでおり、昨年、政府は広く国民生活・経済活動が依拠している必要不可欠な物資として、工作機械・産業用ロボット、半導体、蓄電池を含めた11物資を政令にて指定しております。

令和4年度第2次補正予算では、重要物資のサプライチェーンの強靭化を図るための事業を盛り込んでおり、特定重要物資の安定供給の確保に資する民間企業の設備投資や研究開発の取組を後押ししてまいります。

経済産業省では、2050年カーボンニュートラルという野心的な目標に向けて、脱炭素化に向けた長期にわたる研究開発・社会実装を行う企業等に対して、グリーンイノベーション基金にて、継続的な支援を行っており、今後も必要な支援を行うとともに、カーボンプライシングの制度の在り方や、特に脱炭素化が難しい(hard-to-abate)産業セクターも含め、規制・支援一体型の投資促進策を講じてまいります。昨年2月に発表したGXリーグ基本構想には、既に日本のCO2排出量の4割以上を占める約600社の企業より賛同を頂いており、本年は、予見可能性を高め、企業がGXに向けた投資をしやすい環境作りに取り組んでまいります。

新型コロナウイルス拡大の影響もあり、リモートワークなど日常生活におけるデジタル化が幅広く浸透し、物流や小売業等でのロボット導入や、インフラ点検や物流、災害対応でのドローン活用など、新たな技術の活用場が拡大するなど、データ連携・利活用をはじめとした、デジタル化の促進や、その実現に必要な技術を持つ人材育成が重要となっております。

経済産業省としては、設備投資やIT導入支援を後押しすべく、ものづくり補助金などの生産性革命推進事業や、リスクリン

グ等に取り組んでおります。

2年後に迫った2025年には、大阪・関西万博において「空飛ぶクルマ」の商用運行を開始することを目指し、政府では制度整備や研究開発を進めています。こうした取組などを通じて、経済産業省としては、未来の豊かなモビリティ社会を構築してまいります。

福島の復興は、継続して経済産業省の最重要課題です。経済産業省では、昨年末に官民連携の枠組みである「魅力発見!三陸・常磐ものネットワーク」を立ち上げました。本ネットワークでは、産業界、自治体、政府関係機関等から広く参加を募り、水産物等の売り手と買い手を繋げることで、「三陸・常磐もの」の魅力を発信し、産業界での消費拡大を後押ししていますが、皆様におかれましても、ぜひネットワークへの積極的な協力・参加をお願いいたします。

日本の製造業は、急速に変化し続ける環境の中で、複雑で困難な課題にも多く直面しています。しかし、それらに果敢に取り組みイノベーションを続けることで、安定した成長を続けられると確信しております。引き続き、皆様の現場の生の声をお伺いし、それを産業政策に活かしてまいりたいと考えております。

本年が、皆様にとって素晴らしい1年となることを祈念いたしまして、新年の御挨拶とさせていただきます。

国際アパレル機器&繊維産業見本市「JIAM 2022 OSAKA」開催

2022年11月30日(水)～12月3日(土)まで、インテックス大阪において国際アパレル機器&繊維産業見本市「**JIAM 2022 OSAKA**」を開催しました。

バングラデシュ、インド、スリランカ、韓国、パキスタンが海

外からの上位を占め、コロナ禍での開催ではありましたが、国際色豊かな商談の場として活気あふれる大きな賑わいを見せていました。

(1) 開催概要

名 称	国際アパレル機器&繊維産業見本市「JIAM 2022 OSAKA」
テ ー マ	JIAMから、つながる…～次世代技術と匠の技のコラボレーション～
展 示 面 積	21,136.5㎡ (4、5、6号館)
出 展 者 数	11か国・地域から150社(国内112社・海外38社)
出 展 小 間 数	930.9小間
出 展 参 加 国	11か国・地域(日本、中国、ドイツ、インド、ギリシャ、イタリア、シンガポール、タイ、台湾、香港、イギリス)

(2) 来場者数※1・登録者数※2(単位：人)

日付	天候	来場者数(海外)	登録者数(海外)
11月30日(水)	曇り	2,491(884)	2,491(884)
12月1日(木)	曇り	3,155(1,005)	2,208(352)
12月2日(金)	晴れ	3,110(415)	2,527(67)
12月3日(土)	晴れ	1,696(102)	1,424(12)
総合計		10,452(2,406)	8,729(1,315)

★「来場者」とは、日本展示会認証協議会が定める「展示会統計に係る第三者認証制度」における来場者定義に準拠します。よって、**JIAM 2022 OSAKA**での来場者数・登録者数値には「出展者」「プレス」「来賓及びその関係者」「セミナー講師」は含まれておりません。

※1 来場者数(マルチプルカウント) = 複数日にまたぎ来場している方も含めた人数

※2 登録者数(シングルカウント) = その日初めて来場し、来場登録した人数

詳細につきましては、「**JIAM2022ホームページ**」をご覧ください。 URL: <https://jiam-show.com/ja>

第43回ホームソーイング小・中・高校生作品コンクール入選作品決定

全国の小学生、中学生、高校生を対象に実施した第43回ホームソーイング小・中・高校生作品コンクールは、応募校数は558校(前年637校)、応募点数は3,375点(前年3,689点)でした。厳正な審査の結果、入選作品などが次のとおり選ばれました。

入選作品表彰式は、2023年3月4日(土)、14時30分よりオンライン併用にて(一社)日本工業倶楽部(東京都千代田区丸の内)で執り行う予定です。なお、入選作品等の詳細につきましては、後日、会員及び報道機関向けにお知らせします。

1. 作品賞

- 最優秀賞 5点
- 優秀賞 25点
- アイデア賞 3点
- 佳作賞 38点
- 努力賞 184点
- 全国ミシン商工業協同組合連合会技術賞 1点
- SDGs 特別賞 1点

2. ホームソーイング振興最優秀校賞

小学校、中学校、高等学校 各1校(計3校)

JASMA部会・委員会・WGの紹介

労務委員会は、会員会社から9社9名からなる委員構成になっており、年1回(8月)に開催しております。

昨今の社会情勢を踏まえ、各社の労務及び労働環境等「現状」と「これから」について委員相互の情報交換を行っております。

編集後記

日々刻々と変化する環境の中で難しい舵取りをこなし、**JIAM 2022 OSAKA**が成功裏に終わったことは、皆様のご尽力による賜物と思います。まだまだ経済環境は原材料の高騰や円安、情勢不安などありますが、移動制限も大きく緩和してきており、縫製業界を更に盛り上げるためにも次回**JIAM 2024 OSAKA**に向けてWGや事務局の皆様と準備を進め、今回以上の成果を目指したいと思います。

(A.S)



JASMA 会報

Vol.19 No.4 2023年2月6日発行

一般社団法人日本縫製機械工業会
発行責任者：湯原 孝志

〒105-0004
東京都港区新橋5-25-3 第2一松ビル2階
TEL. 03-6435-8190 FAX. 03-6435-8192

URL <https://jasma.or.jp>
Eメール info@jasma.or.jp

本JASMA会報は、当工業会ホームページに掲載しております。